京 KYOTIAN I.D.
京のおきばりさん

俳優・演出家

萬 寅次

MAN TORAJI

【プロフィール】1977年10月21日生まれ。日本のデトロイト出身。数年間、アパレル業界に身を置くも25歳にして俳優への転身を決意。東映の大部屋役者となる。現在は独立し、演劇団体「I.S.O.T」を主宰。この冬の公演で第5回を数える

芝居というよりは「ショー」演劇の新スタイルを模索中

「大部屋役者」と聞いて思い浮かべる姿とは？ 斬られ役、食えない、顔より殺陣…。貧困な想像力で御免なさい。素直に謝れば、「まさしくそうですよ（苦笑）」と寅次さん。「僕が東映を辞めたのも、入って1年くらいして、自分はここにおったらあかんようになると思ったから。あそこは言ってみれば、僕にとっては桃源郷みたいなところだったんですよ（笑）。それぞれが独自の世界を構築していて、バランス感覚が極端」。あくまで彼自身の所感ではあるが、アパレル業界で働いていた身には、驚くほど一般的な社会性が乏しく感じられた。「ああ、これが俳優ってもんかぁって、本当に戸惑いました」。なぜなら、「僕は演劇の経験もなければ、テレビや映画に出たかったわけでもなく、25歳のときに価値観を大きく変える問題にぶつかって、ふと俳優になろう！と思ったから」。その問題と俳優がどう繋がっているのかは、いまだ自身も答えを掴めていない。「俳優にならんかったらよかったのかもしれない」と毎日考える一方で、それでも「何か分からんけど面白い」ものを追いかけることを止められない。

自分自身の世界から抜け出せないからこそ、精神的に裸になって舞台に出る。それを受け入れてもらえるかは分からない。いや、本当にそうできるかどうかさえも。本気で笑って、泣いて、怒って、とにかく人間臭い感情に蓋をしたくない。彼の主宰する演劇団体「I.S.O.T」の仲間に対しても求めることも、また同じである。「一緒に舞台に立つ誰かが、根底にあるトラウマに向き合うなり、戦うなりして、リアルな自分を表現できたのを見ると、俳優やっててよかったと思いますよ。自分自身のことではそれほど思わないけど（笑）」。そんな彼が、声をかけた団員たちの共通点は？と問えば、「フラットさかな」と一言。いいところは様々だが、一緒にやりたい！と思う決め手は「フラットさ」だと言う。前出のバランス感覚といい、彼が俳優として、引いては人間として大事にしていることが少し見えてくる気がする。

「自己と他人との繋がり」を通奏低音として、人間の核たる部分に存在するものをテーマとした作品づくり。ダンスあり、歌あり、コントあり、映像ありのパフォーマンス性の高い演出。それこそ、寅次さんが自身の生み出すものを「演劇というよりショー、アクト、ライブ」と評する所以だ。日常から切り離されたストーリーの中で、自己のコアな部分を曝け出したい。そうすることによって、リアルな感情を伝えたい。彼の挑戦は、まだ始まったばかりだ。

9月2～3日。ART COMPLEX 1928にて上演された「I.S.O.T」の第4回公演『flow』より。「愛と宇宙」をテーマに綴ぐ、初のラブストーリーに挑戦した作品。1組の男女が出会う奇妙な男たちによって描かれる不思議な世界

同じく『flow』より。歌とダンスで彩るテンションの高いステージは、毎回重厚なテーマを据えているものの、エンターテインメント性の高さゆえか、芸術に浸るより観ていて楽しめる仕上がりに。3カ月に1回の公演ペースには脱帽

5月26～28日に、人間座スタジオにて上演された第3回公演『cluz』より。死んだ彼女に再び会うため、インターネットの架空世界から抜け出して心の旅に出た青年の物語。旅路の果てに見たリアルを表現

information

第5回公演『ellipse』

■日時：11月28日(火)～12月3日(日)
■料金：1000円
■会場：東山青少年活動センター
■場所：京都市東山区清水5-130-6
東山区総合庁舎内2F
■問い合わせ先：075-313-4077（魚住まで）
http://www.isot-web.com/